

学域名	人間社会学域
学類名	国際学類
コース名	国際社会コース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との(しなやかな共生)を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。	グローバル化する現代社会をマクロ的視点から的確に理解するための力を育て上げるために、国際政治、経済、歴史、文化などについての知識を習得するとともに、それらを総合し、国際的感覚と視野を広げると同時に、その理解を深めるために英語などの高いコミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。こうした人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。

学類およびコースのOP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-------------------------	--

<p>【学類のCP】 必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」)、専門基礎選択必修科目(国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。</p> <p>【コースのCP】 国際社会コースのカリキュラムは、政治学、経済学、社会学、歴史学、等々の学問諸領域に縦割りに置かれていた国際関連の個別研究を統合することを目指している。近年、「学際的」な学問の発展が求められているが、国際社会の研究もその一つであり、国際社会コースで学ぶ学生は、人間科学と社会科学に多数の研究者を擁する金沢大学で構築される「国際学」のすぐれた研究成果を、綿密に立てられたカリキュラムのもとで学ぶことができる。</p>	<p>国際問題を理解するために必要な基礎的科目で得た知識を習得している。</p> <p>国際社会に関する専門的知識が系統的に学習され、それについての深い知見を有している。</p> <p>現代社会をマクロ的に展望する能力を習得している。</p> <p>国際社会に関して学んだ知識と理解などに基き、外国語のコミュニケーションを通して十分な自己表現能力を獲得している。</p> <p>国際社会に関する専門的知識に基づき、自主的に関心を持つテーマを見つけて出し、それを独自に考察できる態度と能力を獲得している。</p> <p>日本の文化・社会・歴史や日本語についてグローバルな視点から客観的に観察できる態度と能力を獲得している。</p>
---	--

コース(専攻)のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期						
16001	国際学入門	国際学の概要・基礎的概念を把握する	1	*		◎					
16002	国際政治史A	近代東アジア地域の国際関係の展開過程を理解する。	2	*		◎	◎	△	△	◎	○
16003	国際政治史B	暗黙的歴史を極力排除する。歴史過程は一定の合理性と法則性の元に進行すること学ぶ。ヨーロッパ理解の基礎を構築する。	2		*	◎	○	○	△	○	○
16004	国際関係論	主として戦後の国際政治の展開と現状を理解する	2		*	◎					
16004	国際関係論	国際政治全体についての理論を検討する。次いで、このテーマ、南北問題、地球環境、地域主義などのグローバルなテーマを理解する。それから、アメリカ、ヨーロッパ、中東を取り上げ、そこの内政、国際関係を理解する。	2		*	◎	◎	◎	△	○	○
16005	国際コミュニケーション論	主としてマス・メディアに構成された自分たちの知識の源泉を今一度問い直す。我々の価値観なども日本の持つイメージによって形成されていることを学ぶ。国際人として、自国の枠組みにのみ囚われず、国際的な基準で、公正に、公平にことごと判断する力を身につけることを目標とする。	2		*	◎	◎	○		△	
16006	国際経済学	国際経済学の基本的モデルを修得する。この理解を通して、具体的な貿易利益、貿易政策の経済効果、国際的分業パターン、国際労働・資本移動などの個々の事例を理解する。	2		*	◎	◎	○	△	○	◎
16007	世界システム論	1. 政治・経済・文化の一体化した現実を、それぞれの側面に解きほぐしながら、また全体としてとらえ、分析する能力を身に付ける。 2. 世界システムが個々の国や社会のあり方を規定する仕組みを分析する能力を身に付ける。	2		*	◎	△	◎			
16008	国際貿易論	国際経済・貿易の基礎的知識を身につける	2		*	◎					
16008	国際貿易論	グローバル化の現状の下で、新たな国家間の相互依存関係を学ぶ、日常生活における国際貿易に関するさまざまな問題を適正に理解し、判断する力を修得する。	2		*	◎	◎	◎	△	○	◎
16009	国際協力論	国際協力・対外援助の必要性と実態を理解する	2		*	◎					
16010	異文化理解	国際的事象を相対的な視点から考察する能力と方法論を獲得する。	2		*		◎			◎	◎
16037	国際経済学概論	グローバル化が進む現在、日本と世界がどのようなつながっているのか、また国際経済関係を考えるためにどのような視点が必要なのか、その基礎的な知識や理論を学ぶ。	2		*	○	○	○			
16011	日本文化	戦後の代表的な日本人論・日本論に関する知識を習得するとともに、日本文化の見方を身につける	1		*						○
16012	日本の思想と宗教	神と仏との関係を外国人に説明できるようになる	2		*						○
16013	日本史概説	日本の近世史・近現代史に関する理解を深める	2		*						◎
16014	日本経済論	日本資本主義の史的展開を通じて、日本経済の今日的課題を分析・説明する視角を身につける。	2		*						○
16015	日本の伝統芸能	日本の伝統芸能の形成と展開を概観し、継承・保存の問題を考える力を身につける。	2		*						○
16016	日本政治・外交史	幕末維新期～昭和戦前期の日本政治・外交の展開過程を理解する。	2		*	○	○	○	△	◎	○
16017	日本政治・外交論	英語のリーディングやリスニングを向上させる。・政治学及び国際関係の専門用語を紹介する。・国際的な観点から、日本の政治・外交史を理解する。	2		*		○	◎			○
16018	日本の言語と文化	日本人の言語行動を支配する社会的文化的なルールについての意識を獲得するとともに、他の国々の言語と文化を比較できるようにする。	2		*						△
16019	日本民俗文化論	日本は長い歴史の中で海外の様々な国の文化と出会いながら、日本独自の伝統文化を築き上げてきたことを、主に明治時代以降の日米間の関係を中心に理解する。	2		*						△
16020	日本語学概論	主として現代日本語を中心に、外国人に対する日本語教育や日本人のための国語教育にとって必要な日本語の基礎知識を音声、語彙、文法、文字表記などの分野ごとに身につけ、日本語への理解と関心を深めることができる。	2		*						△
16021	日本語教育学基礎	・日本語教育をグローバルな視野で概観できる。 ・日本語教育の視点から、現在、世界や日本で起こっている現象を理解する。 ・外国人から見た日本語についてや、日本語を外国語として教えるための基礎的な事項を理解する。	2		*	△		◎	○		◎
16022	日本の文学	日本の文学伝統を具体的に理解する	2		*						◎
16023	日本の古典文学	日本の古典文学に関する基礎的な知識を獲得すると共に、その受容の歴史について理解を深める	2		*						○
16024	日本の近現代文学	語りや視点を意識して文学作品を読み解く意識付けができるようになる	2		*						○
16038	日本文化体験A	留学生とともに日本、特に石川県内に様々な形で伝えられる伝統文化、伝統工芸などについて体験を通してその魅力を学ぶ	2		*						△
16039	日本文化体験B	留学生とともに日本、特に石川県内に様々な形で伝えられる伝統文化、伝統工芸などについて体験を通してその魅力を学ぶ	2		*						△

学域名	人間社会学域
学類名	国際学類
コース名	国際社会コース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との(しなやかな共生)を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。	グローバル化する現代社会をマクロ的視点からの確に理解するための力を育て上げるために、国際政治、経済、歴史、文化などについての知識を習得するとともに、それらを総合し、国際的感覚と視野を広げると同時に、その理解を深めるために英語などの高いコミュニケーション能力を身につけた人材を育成する。こうした人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。

学類およびコースのOP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のOP】</p> <p>必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」)、専門基礎選択必修科目(国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題探究型の自己学習を指導する。</p> <p>【コースのOP】</p> <p>国際社会コースのカリキュラムは、政治学、経済学、社会学、歴史学、等々の学問諸領域に縦割りに置かれていた国際関連の個別研究を統合することを目指している。近年、「学際的」な学問の発展が求められているが、国際社会の研究もその一つであり、国際社会コースで学ぶ学生は、人間科学と社会科学に多数の研究者を擁する金沢大学で構築される「国際学」のすぐれた研究成果を、綿密に立てられたカリキュラムのもとで学ぶことができる。</p>	<p>国際問題を理解するために必要な基礎的科目で得た知識を習得している。</p> <p>国際社会に関する専門的知識が系統的に学習され、それについての深い知見を有している。</p> <p>現代社会をマクロ的に展望する能力を習得している。</p> <p>国際社会に関する学んだ知識と理解などに基づき、外国語のコミュニケーションを通して十分な自己表現能力を獲得している。</p> <p>国際社会に関する専門的知識に基づき、自主的に関心を持つテーマを見つけて出し、それを独自に考察し研究する能力を習得する。</p> <p>日本の文化・社会・歴史や日本語についてグローバルな視点から客観的に観察できる態度と能力を獲得している。</p>

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期							
16025	翻訳理論 I	受講生はまずは、英文を正確にかつ緻密に読む力が養われる。また、日本語らしい日本語に置き換えるためのさまざまな工夫も身につく。	2	*							○	△
16026	翻訳理論 II	受講生はまずは、英文を正確にかつ緻密に読む力が養われる。また、日本語らしい日本語に置き換えるためのさまざまな工夫も身につく。	2		*						○	△
16027	英語パブリックスピーキング I A	様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。	1~2	*						○	◎	
16028	英語パブリックスピーキング I B	様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。	1~2	*						○	◎	
16029	英語パブリックスピーキング II A	様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。	1~2	*						○	◎	
16030	英語パブリックスピーキング II B	様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。	1~2	*						○	◎	
16031	英語表現 I A	文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を読んだり、エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。	1~2	*							◎	
16031	英語表現 I A	1.To improve reading, speaking, listening and writing in English. 2.To learn to participate actively in an all-English environment. 3.To develop a clear understanding of various international perspectives and varying Japanese perspectives related to Japan's political history.	1~2	*			○	○	○	○	◎	○
16032	英語表現 I B	文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を読んだり、エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。	1~2	*							◎	
16033	英語表現 II A	文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を読んだり、エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。	1~2	*							◎	
16034	英語表現 II B	文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を読んだり、エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。	1~2	*							◎	
16035	英語コミュニケーション I	みずからの目的に応じた、英語コミュニケーション能力が増強できる。	1~2	*						△	◎	
16036	英語コミュニケーション II	みずからの目的に応じた、英語コミュニケーション能力が増強できる。	1~2	*						△	◎	
51001	国際金融論 A	国際金融論の理論・制度・現状をバランスよく理解出来るようになる	3~4	H22				○	△			△
51002	国際金融論 B	基礎知識を前提に、世界各国が直面する複数の課題に視点を広げ、国際金融の現代的な問題や、歴史の中での経験、及び将来のあるべき制度について、自分自身の見識を持つことが出来る	3~4	H22				○	△			△
51003	国際公共経済論 A	近代600年を通じた国際政治経済の趨勢的变化を理解する。また、国際政治経済学の主要な理論を理解する。	3~4	H22			◎	◎	◎			◎
51004	国際公共経済論 B	国際法の基本的知識、国際経済法、現代国際法の特徴を理解する。国連について理解する。日本と他の先進国の行う対途上国援助の特徴と問題点について理解する。	3~4	H22			◎	◎	◎			◎
51005	比較経済体制論 A	比較経済学の成果を踏まえ戦後世界経済と経済システムの変容について体系的に理解する。	3~4	H22			◎	◎	◎			◎
51006	比較経済体制論 B	比較経済学の成果を踏まえ戦後経済システムの空間的(各国・各地域)多様性を理論的に捉える。	3~4				◎	◎	◎			◎
51007	比較文化論	日本の社会の差別の形式および機能を調査する	3~4	H22			◎	○			○	
51008	多文化主義論	・移民や外国人、エスニック・マイノリティが置かれた状況を理解するための文献を読み、文化的多様性に対する政策の多様性を知る。 ・複数国の事例をふまえた比較考察によってグローバル化と多文化化がもたらす現象を構造的・連動的に捉えられるようになる。 ・参加者間のディスカッションを通じて自分とは異なる見方・考え方に気づいた上で、多文化社会のあり方について自分なりの視点、問題意識を獲得する。	3~4	H22			△	○	◎		◎	○
51009	比較政治学	・英語のリーディングやリスニングを上達させる。 ・政治学の専門用語を紹介する。 ・比較的観点から民主主義を理解する。	3~4	H22			◎	◎	◎		◎	△
51010	世界地誌 A	グローバル化の進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との(しなやかな共生)を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。	3~4	H22			◎		○			
51011	世界地誌 B	現行の開発政策や海外援助のあり方を批判的に見直し、現場の事実に基づいた途上国理解を得る。	3~4				◎		○			
51012	マス・メディアと国際コミュニケーション	マスメディアに対処する方法を学習する。	3~4	H22			○				◎	
51013	国際社会論特論 A	国際社会や自然環境におけるさまざまな事象について、これらは個々に独立したものではなく、相互に影響を与えながら空間的かつ時間的に変化するものであることを理解し、これらを包括的に考えるための基礎を身につける。	3~4	H22			◎	○	◎		△	○
51014	国際社会論特論 B	国際社会や自然環境におけるさまざまな事象について、これらは個々に独立したものではなく、相互に影響を与えながら空間的かつ時間的に変化するものであることを理解し、これらを包括的に考えるための基礎を身につける。	3~4	H22			◎	○	◎		△	○

学域名	人間社会学域
学類名	国際学類
コース名	国際社会コース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との(しなやかな共生)を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。	グローバル化する現代社会をマクロ的視点から的確に理解するための力を育て上げるために、国際政治、経済、歴史、文化などについての知識を習得するとともに、それらを総合し、国際的感覚と視野を広げると同時に、その理解を深めるために英語などの高いコミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。こうした人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。

学類およびコースのOP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】</p> <p>必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」)、専門基礎選択必修科目(国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターンシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。</p> <p>【コースのCP】</p> <p>国際社会コースのカリキュラムは、政治学、経済学、社会学、歴史学、等々の学問諸領域に縦割りに置かれていた国際関連の個別研究を統合することを目指している。近年、「学際的」な学問の発展が求められているが、国際社会の研究もその一つであり、国際社会コースで学ぶ学生は、人間科学と社会科学に多数の研究者を擁する金沢大学で構築される「国際学」のすぐれた研究成果を、綿密に立てられたカリキュラムのもとで学ぶことができる。</p>	<p>国際問題を理解するために必要な基礎的科目で得た知識を習得している。</p> <p>国際社会に関する専門的知識が系統的に学習され、それについての深い知見を有している。</p> <p>現代社会をマクロ的に展望する能力を習得している。</p> <p>国際社会に関して学んだ知識と理解などに基づき、外国語のコミュニケーションを通して十分な自己表現能力を獲得している。</p> <p>国際社会に関する専門的知識に基づき、自主的に関心を持つテーマを見つけて出し、それを独自に考察し研究する能力を習得する。</p> <p>日本の文化・社会・歴史や日本語についてグローバルな視点から客観的に観察できる態度と能力を獲得している。</p>

コース(専攻)のカリキュラム		学生の学習目標	学年	前期	後期	◎	○	◎	◎	◎
科目番号	授業科目名									
51205	現代中国論	現代中国の政治を中心に、これと関連する社会・経済・歴史・文化についての知識を増やし、中国に対する理解を深める。	2	H22		◎	○	○		○
51015	国際社会研究演習A	国際社会の具体的な問題を研究・討議する	3	H22	H22				◎	
51015	国際社会研究演習A	・英語のリーディングやリスニングと、日米政治システムに関する専門的知識を身につけること。 ・論理的思考によって考え、議論が進められるようになること。 ・様々な意見を交換し合い、広い視野に立って、独自の世界観を形成していくこと。	3	H22	H22	○	○	○	◎	◎
51016	国際社会研究演習B	卒業論文の執筆に役立てる	4	H22	H22				◎	
51016	国際社会研究演習B	・英語のリーディングやリスニングと、日米政治システムに関する専門的知識を身につけること。 ・論理的思考によって考え、議論が進められるようになること。 ・様々な意見を交換し合い、広い視野に立って、独自の世界観を形成していくこと。	4	H22	H22	○	○	○	◎	◎
38001	インターンシップ	・民間企業や官庁・自治体、NGO・NPO等での業務内容を理解できる ・民間企業や官庁・自治体、NGO・NPO等での国際的な業務についても理解できる ・自らに適合した将来の進路を選択する能力を向上させる	3	H22		△	△	○	◎	◎
38002	卒業論文	研究・分析・文章表現能力を身につける	4						◎	
別に定める	異文化体験実習 I (海外)	海外等での語学研修やボランティア活動等に参加して、コミュニケーション力を習得し、さまざまな文化に親しむ。	1~4	H22	H22			◎		△
38151	異文化体験実習 I (ドイツ)	ドイツでのサマーコースに参加してドイツ語のコミュニケーション力をつけるとともにドイツの文化や生活に親しむ。	2~4	H22	H22			◎		△
38152	異文化体験実習 I (フランス)	フランスの大学での語学研修に参加し、フランス語の運用能力を高める。フランスでの生活体験や課題の達成を通して、フランスの文化に親しむ。	2~4	H22		△				△
38153	異文化体験実習 I (中国)	中国社会・文化への理解の促進と中国語能力の向上	2~4	H22		○		○	○	
38154	異文化体験実習 I (中国)	中国社会・文化への理解の促進と中国語能力の向上	2~4	H22		○		○	○	
38155	異文化体験実習 I (イギリス)	たんなる語学研修に終わらない、イギリスに関する幅広い知識が習得でき、また、イギリスの人や風土とじかに接することができる。	1~4					◎	○	
38201	異文化体験実習 II (海外)	異文化体験実習 I で学んだ語学の習得	1~4	H22				◎		△
38202	異文化体験実習 II (ドイツ)	異文化体験実習 I で学んだドイツ語の習得	2~4	H22				◎		△
38203	異文化体験実習 II (フランス)	フランスの大学での語学研修に参加し、フランス語の運用能力を高める。フランス語検定試験で適切な級の認定を受ける。	2~4	H22		△				△
38204	異文化体験実習 II (中国)	中国語検定試験二級合格を目指す。	2~4	H22				○		
38205	異文化体験実習 II (イギリス)	ケンブリッジ語学研修を通して、さらなる英語の力を身に付けるとともに、イギリスの諸文化、歴史にじかに触れることで、英国の層の厚さを理解する。	1~4					○	○	○